

三菱商事の子会社で業界最大手のコーンスターチメーカー・日本食品化工は、2月から遺伝子組換え（GM）トウモロコシを輸入、炭酸飲料の甘味料として供給を始めました。今後GMトウモロコシを使った食品の流通が広がる可能性が出てきました。

日本はトウモロコシのほとんどを米国から輸入しています。米国ではGMトウモロコシの作付が全体の8割近くまで増え、非GMの調達が困難な状況になっています。

表示義務なく混乱の可能性

ビールなどにGMコーンスターチを使った場合は、使ったことを示す表示義務がJAS法によって課されています。

一方で、コーンスターチは異性化液糖などの糖化原料となつて、清涼飲料など多くの分野で使用されています。この場合は表示義務はありません。

納豆や豆腐メーカーは消費者感情に配慮し非GM大豆を使用している。しかし遺伝子組み換え作物がもっとも多く使われている大豆油、ナタネ油、しょうゆは、遺伝子組み換えを使っている」

（食用油メーカー）。

GM原料を使っても、表示義務がないからです。

消費者の選ぶ権利？

ぽかぽか陽気が多くなり冷たいジュースが美味しい季節になってきましたネ！・・・
 暑い日には、かわいい子ども飲ませてあげたい・・・



「でもそのジュースの甘さが遺伝子組換えトウモロコシが原料だったら」

GMを使用しているものは、選択基準として是非、表示をしてほしいものです。
 是非かは消費者が判断することです。

食糧植民地 ニッポン



お茶碗1杯分のお米の値段です。

こんなに安くて、とっても美味しく、健康にも良い安心して食べることができる日本人の主食『おこめ』。放棄しますか！

現在の穀物高騰は日本に警鐘をならしています。

主食のお米が、納豆や豆腐のように外国産に依存するようになったら日本は完全な食料植民地となってしまいます。

美味しいお米の専門店
(株)太田屋
 日本スローフード協会会員

営業時間 10:00~19:00
 定休日 月曜日
 配達日 火・木・土曜日
 TEL 247-3366
 メール kome-ootaya@nifty.com
 ホームページ ootaya.jp

危うい外国産頼み

食料有事 □ □ 偏る輸入相手国

□「日本は注文が厳しく、同じ価格ならよそへ売られるかもしれない。注文は世界中からある。」ブラジル最大手の鶏肉輸出会社。日本は輸入する鶏肉の92%をブラジルに依存しています。

日本企業は20%刻みの重量指定など数え切れない注文をしてくる。「中近東の国々などは、日本の2割高でも買う。」うるさい顧客は嫌われる時代がきた。「もしブラジルで疫病が出たら大混乱する。だが、それが鶏肉を輸入に依存する日本の現実。」

.....

□日本の伝統食も、食料争奪戦の荒波は押し寄せています。原料の米産大豆の仕入れ値が半年で2倍に高騰。空前の原料高騰が豆腐業界を直撃しています。納豆メーカーも青息吐息。

「消費者が求める安さを実現するため、外国大豆に頼ってきた」と、全国納豆連合会の松永専務理事

日本の伝統食も自給率はわずか3%。危うさの上に立っています。

.....

□「かしわもち」など和菓子や、あんパンに使う小豆が品不足だ。中国製ギョーザ中毒事件が起きた後、食品に対する安全性検査が強化された影響で、中国から小豆や、砂糖を加えた「加糖あん」の輸入がほぼ停止しているためだ。中国からの輸入割合は小豆で88%、加糖あんは97%にもなる。中国産は価格が安く、国内需要の約半分を占める。

極端に低い穀物自給率

危険な 輸入国の大きな偏り

品目別自給率とその変化(単位%)

品目	1965年度	2004年度	主な輸入国	割合
米(主食用)	95	100		
小麦	28	14	米国	55
大豆	11	3	米国	71
トウモロコシ		0	米国	94
野菜	100	79	中国	43
牛肉	95	44	豪州	90
豚肉	100	51	米国	33
鶏肉	97	69	ブラジル	92
乳製品	86	67	豪州	28

もし、輸入大国で大干ばつや食品安全のトラブルが起きたら・・・の本の食卓は、世界のリスクと背中合わせである。

(出所) 農林水産省 (2006年度確定値)

だいつさま



ほら目を吹きながらの巡礼です



毎年4月5日は「だいつさま」(弘法大師)の日です。我が家には四国八十八の5番札所の(地蔵寺)お迎えし御祭りしてあります。

多い年には百人以上の人と一緒に巡礼をしてまわります。



この日は大忙しです。お茶や、おにぎり、持ち帰り用のお菓子などのおみやげを用意して一行の到着を待ちます。 竜ヶ崎店 飯野洋子

背中には「南無大師遍照金剛」の文字が